

## 平成27年度県立大学地域貢献研究の研究成果について（完了報告）

研究テーマ	カニ殻農法による県内農作物の地域ブランド化とトマト新品種の育種	
研究期間	平成26～27年度	
主たる研究者	【学部・学科】 生物資源学部・生物資源学科	【職・氏名】 教授・木元 久

## ○ 研究目的

本研究では、カニ殻由来のオリゴ糖を有効成分とする植物活力剤“植物剛健”を使用した有機栽培（カニ殻農法）により、トマト（越のルビー）などの地域農作物の付加価値を高め、さらに“越のルビー”に続くトマトの新品種を開発する。

## ○ 研究成果

## 新品種ミニトマト



県大2号  
(越のルージュ)

県大3号  
(越のロツソ)

県大4号  
(越のロケット)

ミニトマトである“越のルビー（県大1号）”に続く、新品種の子トマトを3種育種した。“越のルージュ（県大2号）”は、高い糖度と特有のフレッシュな香味が魅力であり、さらに口の中で皮の感触が残らない食べやすい品種として選抜した。“越のロツソ（県大3号）”は、県大2号ほどの甘さはないが、トマトとしての旨味が強く、収穫量も含めたトータルバランスのよい品種として選抜した。“越のロケット（県大4号）”は、形がロケットをイメージさせる果実であり、ゼリーの落ちが少なく（種の部分が少ない）、果肉がしっかり（歯ごたえあり）しているため、加熱調理にも向いているという特徴がある。

今後は、2016年度中に品種登録に向けた栽培試験および商標登録を終了し、2017年に3品種とも新品種として登録を申請する予定である。